



第17回木材保存技術奨励賞

「固化タイプ防蟻剤の開発」

中垣匡司 (日本エンバイロケミカルズ株式会社)

東京工業大学工学部化学工学科卒 (1993年)

東京工業大学大学院理工学研究科化学工学専攻修了 (1995年)

武田薬品工業株式会社に入社, 生活環境事業部に配属 (1995年)

日本エンバイロケミカルズ株式会社に出向 (2003年)

入社以来, 木材保存剤の研究開発に従事し, 現在に至る。

業績概要

日本エンバイロケミカルズ(株)は2003年4月に武田薬品工業(株)から分社化した後, 2005年4月からは大阪ガスグループの一員となり, 木材保存剤事業の他, 活性炭事業, 工業用保存剤事業等の環境関連分野にて事業展開しております。

木材保存剤分野においては1964年のキシラモン発売以来, 文化財および一般住宅の保存に務め, その間一貫して“安全性と効力”の両面に配慮した製品設計を行ってまいりました。

今回の受賞対象となりました“タケロック MC ブロック”にもこの思想は受け継がれています。“安全性”の点に着目しますと, 有効成分に蒸気圧が極めて低くかつ毒性が低いクロチアニジンを選択しています。さらにそのクロチアニジンがマイクロカプセル化されていること, さらには製剤が施工後固化することから環境負荷の面にも配慮がなされています。“効力”の点に着目しますと, やはり施工後固化するという特長から強固な物理的障害となるのみならず有効成分クロチアニジンの存在により確かな防蟻効力も兼ね備えています。また液剤とは異なり垂直面への施工が可能であることから多様な施工場面に対応可能な製剤となっています。

このように“タケロック MC ブロック”はこれまでの“安全性と効力”の考え方をさらに一歩進めた製品であるといえます。

今後の取り組み

近年, 木材保存剤の安全性が疑問視される傾向が強いためか, ともすれば効力は二の次といった風潮を感じます。しかしながら本来の目的を再考すると木材保存剤にとって“安全性と効力”は車の両輪と考えるべきでありどちらか一方のみに重心を傾けるものではないと思います。今後も客観的な指標に基づく安全性を有し, 確かな効力を有する木材保存剤の開発に携わっていきたいと思います。

主な成果報告

- (1) 中垣匡司, 山本幸一: “キシラモントラッドの性能について”, 第18回日本木材保存協会年次大会 (2002年)
- (2) 中垣匡司, 吉田慎治: “新規開発製剤 NEW-S10の性能について”, 第21回日本木材保存協会年次大会 (2005年)